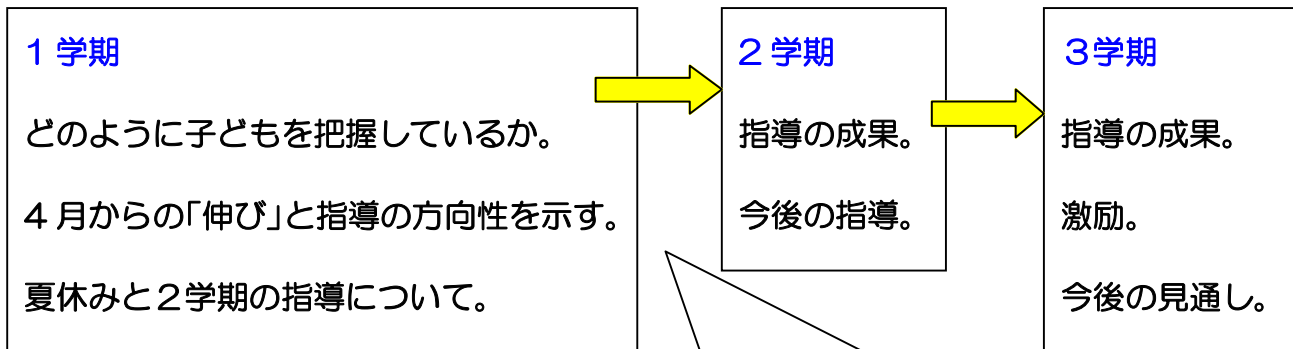


個別懇談



- 子どもの欠点は、担任以上に親はよく知っている。
悪いところは、指摘する必要はない。「こんなことを指導していきたい。」というふうに話せばいい。
指導内容を示せば、親は、自分の子どもの問題点に気付くはずである。
- 子どもの優れている面を話せばいい。それを、ますますのばす為に「こんなことを指導していきたい。こんな努力をしてほしい。」と欠点克服の指針を示せばいい。
- 成績の話。絶対評価だから、クラスの他の子どもたちと比較する必要はない。親は、「みんなについていっているでしょうか？」とよく聞かすが、相対的な話は、する必要はない。どういうところをクリアしていて、どういうところをクリアしていないかを話すこと。おもに、知識理解面と見方考え方の2面で話せばよい。もちろんクリアしていないのは、本人にも問題があるが、担任の責任が大であるから、「私の努力不足です」ということ。
- 学校生活面の話。「よいおこない」を具体的に話すこと。何か一つぐらいはあるはずだ。友達関係については、よい面を話して、親から情報を得ること。親の心配を聞き出すこと。
- 親の子に対する思いや先生に対する期待を聞くこと。即答は避けること。いいことであれば、かなえられるよう気をつけていけばいい。ある程度結果が出てから、親に話す。
- 成績の悪い子の親ほど成績を気にしているので、成績の話をする。悪い中にも「芽生え」や「のび」がみられると思うので、それを話すこと。それと今後の指導の方向を話すこと。
- 家に帰って親が「こんなことを褒めてもらったよ。」と話せる内容を必ず入れること。「帰ったら、褒めてやってくださいね。」ということ。

子どもができないのは、担任の責任。

子どもが悪いのは、担任の責任。

とって話をする。